



校長
永田 征志

長い歴史を閉じる学校

大正5年創設



鹿追町立上幌内小学校

1 学校の歴史

上幌内小学校は大正5年音更村鹿追教育所上幌内特別教授場として開校し、昭和10年に現在地に移転、1230名以上の卒業生とともに、栄光ある歴史と伝統を刻んできた。しかし、児童数が10名以下となり、効果的な教育環境を維持することが難しくなってきた。この状況を受け、令和6年度末をもって、109年の歴史を閉じることとなった。

2 特色ある教育活動

(1) 羊の飼育

本校の大きな特色であり、平成13年から始めた羊の飼育が、令和2年度末をもって終了した。子どもたちは、羊の世話や毛刈り、出産等を通して「命のつながり」を学んできた。



(2) 帯広盲学校との交流

帯広盲学校との交流は、20年以上の歴史と伝統をもつ学校行事である。交流は年に2回行い、夏は上幌内小学校が帯広盲学校を訪問し、冬は帯広盲学校が上幌内小学校を訪問する形で行ってきた。コロナ禍ではオンラインでの交流を続けてきた。子どもたちは、交流を通して障がいや多様性について学び、自己の在り方を考える機会とすることができた。



(3) 農園活動と収穫祭

生活科と総合的な学習の時間の中で行う農園活動は、1学年から6学年の全員で取り組んできた。鹿追町教育の重点目標の1つである「探究学習の充実」を具現化するために、探究プロセスを取り入れた活動としてきた。9月に行う収

穫祭では、学びのまとめを発表するとともに、自分たちで収穫・調理したものを保護者や地域の方々とともに味わった。

3 閉校に関わる行事

(1) 閉校記念協賛事業

協賛会事業部が記念事業として、閉校記念看板の設置、閉校記念横断幕の作成、閉校記念Tシャツの作成と配布、運動会種目と学習発表会演目への地域住民の参加等を執り行った。

(2) 閉校記念式典及び惜別の会

令和7年2月8日(土)、主催者の鹿追町、来賓、同窓生、歴代の教職員等が集い、閉校記念式典及び惜別の会が執り行われた。





校長
松下 政博

長い歴史を閉じる学校

明治34年創設

本別町立仙美里小学校

1 学校の歴史

仙美里小学校は、明治34年10月に第一本別簡易教育所として開校した。その後、昭和45年に新生小学校と拓進小学校、平成10年に美里別小学校との統合を経て、現在まで124年の歴史を紡いできた。この間、巣立った卒業生は3047名に上る。近年の児童数減少や保護者からの「子どもたちにより豊かな体験をさせたい」という声を受けて、令和7年3月31日をもって閉校を迎えることになった。

2 特色ある教育活動

本校では、地域の協力を得て、郷土の自然や文化に根ざした体験学習を推進してきた。JA青年部と行う農園活動や、もちつき保存会による餅つき体



験などを通じて、子どもたちに郷土への愛着を育ててきた。また、異学年の子どもたちが毎日一緒に清掃活動を行ったり、全校遊びや全校給食を行ったりするなど、学年の垣根を越えた交流を大切にしてきた。卒業生を温かく祝福する様子や、新入生をみんなで歓迎する様子からは、子どもたちの仲のよさだけではなく、少人数の学校ならではの「人と人のつながりのよさ」を感じる。

3 閉校に関わる行事

最終年度である令和6年度は、「仙美里小学校へのこれまでの関わりが、誰にとってもよい思い出として感じられるようにする」をスローガンとして掲げ、保護者・教職員が協力して、以下の学習や学校行事を行った。

- ・閉校記念運動会（特別種目）
- ・閉校記念学習発表会（閉校に絡めた発表）
- ・閉校記念夏祭り（学校宿泊体験）
- ・閉校記念帯広研修旅行
- ・校舎見学会（地域・卒業生への開放）
- ・親子清掃活動
- ・馬とのふれあい体験学習
- ・統合先の学校との合同学習（遠足、水泳学習、見学学習、授業参観など）
- ・統合先の学校とのPTA合同レクリエーション、親睦交流会
- ・全校陶芸体験学習
- ・全校書き初め体験学習
- ・閉校記念文集、記念誌の作成
- ・閉校記念式典、惜別の会

